

総合教育会議

平山小学校 研究概要



令和4年11月15日

第3次日野市学校教育基本構想

みんなで 対話をしながらつくりあげていく
学び合い育ち合い **わくわく**ムーブメント

- ★みんなですくっていきます
- ★みんなができることから始めます
- ★みんなが責任をもちます
- ★みんながゆっくり進みます

一律一斉の学びから 自分に合った 多様な学びと学び方へ

- ・ひとりひとり学びへの興味も理解のしかたも違います。自分に合った学び方で学んでいきます
- ・自ら設定した目標に向かって、自らの力を最大限に引き出していきます
- ・分からないことを「分からない」と言える雰囲気、「教えて」と言える関係、教え合える風土を大切にしていきます

自分たちで考え 語り合いながら生み出す 学び合いと活動へ

- ・疑問やおどろきから生まれる問いを大切に、自分たちなりの方法で、自分たちなりの答えにたどりつく過程を大切にします
- ・多様な人が支え合い、知恵を出し合って、新しい良さも生み出します
- ・大切なことはみんなで決めて自分たちで進みます
- ・地域の人と出会い、学びつなげます

わくわくが広がっていく環境のデザイン

- ・地域の人や企業、大学が、わくわくどきどきの学びを提供します
- ・保護者が参加してくれたり、手伝ってくれたりします。時には先生や大人は学びの促進者です。問いを深めてくれたり広げたり考え方に合わせてくれます
- ・楽しく学べるICT環境やひとりひとりへの支援体制が学びと育ちを応援してくれます

自らの羅針盤を

自らが育んでいく

みんなが育って 自分も育って



第3次日野市学校教育基本構想

みんなで対話をしながらつくりあげていく
学び合い育ち合い心のわくわくムーブメント

★みんなでつくっていきます ★みんなができることから始めます
★みんなで責任をもちます ★みんなでゆっくり進みます

**一律一斉の学びから
自分に合った
多様な学びと学び方へ**

- ひとりひとり学びへの理解のしかたも違います。自分に合った学び方で学んでいきます
- 自ら設定した目標に向かって、自らの力を最大限に引き出していきます
- 分からないことを「分からない」と言える雰囲気、「教えて」と言える関係、教え合える風土を大切にしています

**自分たちで考え
語り合いながら生み出す
学び合いと活動へ**

- 自分たちで考えながら生まれる学びを大切に、自分たちなりの方法で、自分たちなりの答えにたどりつく過程を大切にします
- 多様な人が支え合い、知恵を出し合って、新しい良きものを生み出していきます
- 大切なことはみんなで話し合い、ルールを決めて自分たちで責任をもって行動します
- 地域の人と出会いながら、感じ、考え、地域と結びつきながら活動を展開します

わくわくが広がっていく環境のデザインへ

- 地域の人や企業、大学が、わくわくどきどきの学びを提供してくれます
- 保護者が参加してくれたり、手伝ってくれたりします。時には企業で運営してくれます
- 先生や大人は学びの促進者です。問いを深めてくれたり広げてくれたり、いろいろな考え方に会わせてくれます
- 楽しく学べる環境やひとりひとりへの支援体制が学びと育ちを応援してくれます

個別化

協働化

一人一人を大切にしたい学び合い

「一人一人を大切にしたい学び合い」 の具体的な取組

自由進度学習



学習の進め方(ガイドライン) 名前

学習する項目(終わったら口にチェック)	確認済み	説明済み
1. 小数の表し方		
1 □ 口 どの小数を学習したかな? に取り組む (P74)		
□ ロ ボットに入る水のかさを、L 単位で表す (P75)		
□ 問題を解き、P74~76 までに学んだことをまとめる (P76)	リ	丸
2 □ 1.435 という数について説明をする (P77)		
□ 問題を解き、P77~78 で学んだことをまとめる (P78)	心	丸
2. 小数のしくみ 3. 小数のたし算とひき算		
1 □ 1 と 0.1、0.01、0.001 の関係を調べて説明をする (P79)		
□ 問題を解き、P79・P80 で学んだことをまとめる (P80)	心	丸
2 □ 小数の大きさを比べて説明をする (P81)		
□ 0.74 を 10 倍した数、10 分の 1 にした数はいくつか説明をする (P82)	☆	丸
3 □ 2.45 は、0.01 を何回集めた数か図をかくて説明をする (P83)	心	丸
4 □ 小数の文章問題の解き方を考えて、練習問題を解く (P84)		
□ 小数のたし算の筆算のしかたを 説明をする	心	丸
5 □ 小数の筆算のしかたを調べて、練習問題を解く (P85)		
6 □ 小数の文章問題の解き方を考えて、練習問題を解く (P86)		
□ 小数のひき算の筆算のしかたを 説明をする	心	丸
7 □ 筆算のしかたを調べて、説明をする (P87)		
□ 練習問題を解く (P87)	心	丸
8 □ 3.45 は、どんな数が説明をする (P88)		
4. まとめ		
1 □ 口いかしてみよう を解く (P89)		
2 □ 口だしかめよう を解く (P90)		
3 □ つないでいこう 算数の目を解く (P91)		
5. しあげ 応用にチャレンジ		
1 □ フラントに取り組み		
2 □ インタラクティブスタディーに取り組み		
3 □ 「小数のしくみ」のオリジナルの教科書作りに取り組み		
4 □ 「小数のしくみ」の問題作りに取り組み		
5 □ ミッションに取り組み		

【学びを進めるために】 勉強数は 13 冊です。(8月6日まで)

- ◇ わかりにくいところは、先生や友達にアドバイスをもらって OK です。
- ◇ 教科書に「読み方」の注意についてください。大切に守ってほしいです。先生は応援しています。イメージは授業中の学習風景です。
- ◇ スタッフがサポートし、色を塗ります。

説明でわからない箇所は先生に、説明でわからないところは先生に、わからない場合は先生に聞いてください。

自由進度学習は、子供たちが学習の手引き（ガイドライン）を基に自分のペースで学習を進めていく学習形態です。

自由進度学習



授業が始まると子供たちは、学習のめあてを確認し、教科書やクロムブックを使って自分で学習を進めていきます。

自分のペースで進めていくので、理解の早い児童は発展学習に取り組み、一方でつまずきの見られる子は学習活動をやり直したりすることもできます。

自由進度学習



一人で取り組みたい子、友達と相談しながら進めたい子、一人一人の子供たちが自分の学び方を選択しながら進めて行きます。

自由進度学習



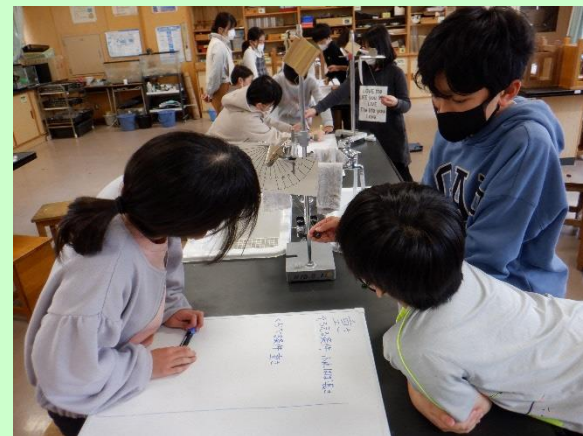
テキストで学ぶだけではなく、友達に説明をしたり、実際に確かめたりする課題を設定することで、子供たちの思考力・判断力・表現力を発揮して学びを深められるようにします。

自由進度学習



教師は、子供たち一人一人の学びの様子を見立てながら、一人一人に適した支援をしていきます。

プロジェクト型学習



日本の食料自給率と課題

右上のグラフは世界各国の食料自給率を表したものです。日本の自給率は一番右のものです。明らかに低いですね。

はじめに少し言葉の意味の確認をしておきます。

食料自給率...自分の国で必要な食料を、自分の国の中でどのくらい賅えているかということ

日本の自給率は危機に見舞われています。それは、外国の食料自給率が上がっているのに対し、日本の自給率は増えるどころか段々と減ってきてしまっているからです。去年の日本の食料自給率は39%。そこから今年は38%まで落ちてしまいました。

もう一つの理由は、外国から食料を買ったほうがやすいため外国からの輸入に頼っているということです。日本で作ると、土地の価値や人件費などが高くなるため、日本で生産する場合よりも外国から輸入することのほうが安くなるのです。

理由はもう一つあります。それは、日本の食生活が変わっているということです。日本の食生活のもともとの中心となっていたものは白米でしたが、外国からパンが伝えられたことで白米を食べる機会が減りました。そのため白米の生産も前より少なくなり、米の自給率も下がったというわけです。

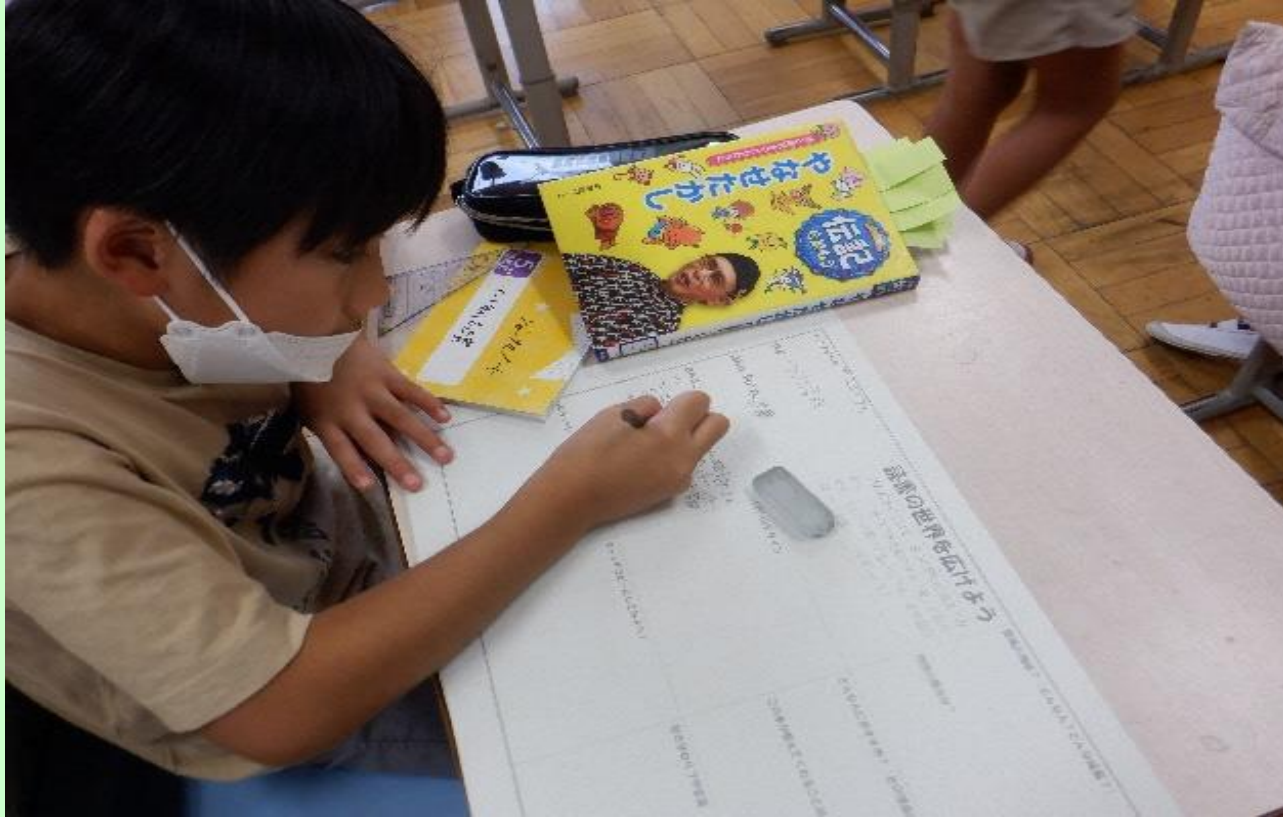
児童の活動を単元の中心に置くことで、児童の多様な学びと学び方を大切にすることができるようだけではなく、児童同士が関わり、学び合いながら活動を進めることができる。

プロジェクト型学習



導入では、地域の絵本屋さん出版社、作家さんをゲストに呼んでブックトークをしてもらうことにした。

プロジェクト型学習



児童一人一人の読みの力は異なる。児童の実態に応じて選書ができるように絵本から児童書まで様々なレベルの本を用意した。（一人一人を大切にしたい学び）

プロジェクト型学習



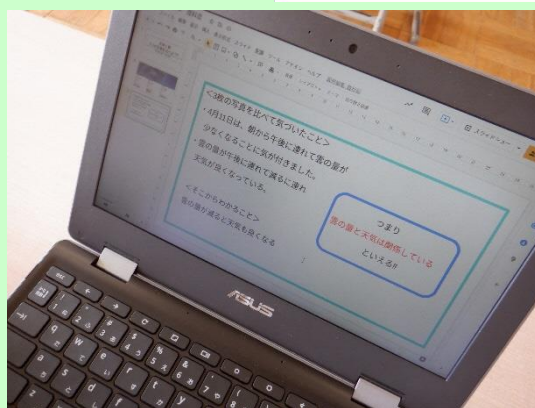
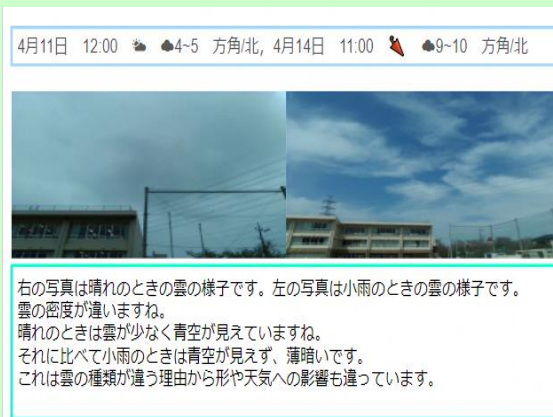
児童が互いに見合ったり、教え合ったりしながら学習を進められるようにした。席の移動を自由にしたり、自分のタイミングで離席して交流したり学び合えるようにした。

プロジェクト型学習



児童が作成したポップは、絵本屋さん実際に展示してもらうようにした。児童の活動や学びが学校を越えて地域に広がって行くことは、児童の大きな動機付けになった。

ICTの活用



一人一台のクロムブックを活用することで、子供一人一人の思考や表現、学習のペースを大切にしたり、子供たちが互いに交流したり、協働作業をできるようにしました。

ICTの活用



デジタルドリルを活用して、個々に合ったレベル・ペースで学習に取り組んでいきます。

ICTの活用



④結果 〈削る力（浸食作用）〉



上の写真から、はじめより水を流したときのほうが、土がぼこぼこ削れていることがわかります。このことから水は削る力があることがわかります。これを**浸食作用**と言います。

〈削る働き〉

・土の壁を削り壊している。 ・水の量や速さによって削れる大きさが違う。



クラウドを活用して、共同編集・相互参照・相互評価を授業に取り入れて協働的に学習を進めることができます。